



2回戦前の最後の練習を終え、仲井宗基監督の話を聞く八学光星ナイン
＝11日、兵庫県西宮市の鳴尾浜臨海公園



光星ナイン調整順調

きょう智弁（奈良）と2回戦

第101回全国高校野球選手権大会で、青森県代表の八学光星は大会第7日の12日第3試合（午後1時開始予定）で智弁学園（奈良）と対戦する。ナインは試合前日の11日、兵庫県西宮市の鳴尾浜臨海公園野球場でノックやフリー打撃などに約2時間汗を流した。

しっかりと守りたい
八学光星・武岡龍世主将
1回戦同様に、1点ずつ得点を積み重ね、内外野ともにしっかりと守りたい。相手は打撃のチームなので、投手陣は低めに集めることを心掛け、粘り強くゴロを打たせることが重要。打線は相手投手のボール球を振らないよう徹底する。

粘り強く戦う
八学光星・仲井宗基監督
全員力を合わせて粘り強く戦う。投手陣は失点を覚悟しながらも、無駄な四球を出さないことが重要。打たれた後にするすといかないようにしたい。打線は、取れるところでしっかりと得点できるように、そのつない攻撃に努める。

打ち勝つ野球貴く
智弁学園・坂下翔馬主将
全チームの最後に初戦を迎えるが、奈良県代表として恥ずかしくない試合をしたい。相手は甲子園の常連校で、既に1回戦を勝つては強打のチーム。初球から振ってくるので、丁寧に低めに集め、的を絞らせないようになりたい」と意気込んでいる。

フリー打撃では1回戦で3安打と好調だった武岡龍世らが、相手投手陣を想定した近距離打撃で快音を連発。投手陣は、1回戦で救援した右腕山田怜卓と左腕横山夏風が、捕手を座らせて数十球を投げて本番に備えた。終了後は仲井宗基監督が「今更にはたしてよも仕方ない。隙を見せないように、集中していこう」とナインを鼓舞した。

2回戦に向け、山田は「直球、変化球共に、走っている」と、順調な仕上がりをアピールしつつ「相手を強く戦う。投手陣は失点を覚悟しながらも、無駄な四球を出さないことが重要。打たれた後にするすといかないようにしたい。打線は、取れるところでしっかりと得点できるように、そのつない攻撃に努める。」と意気込んでいる。

我慢強くプレーする
智弁学園・小坂将商監督
自分たちは打撃のチームと言われているが、守備にも自信がある。しっかりと守って攻撃につなげ、積極的な試合運びで試合をコントロールしたい。打のチーム同士の勝負。四球や失策をした方が負けるので、我慢強くプレーする。

初戦で先制の満塁弾を放った上山昂大は「左腕の内角の直球、右ならスライダ

1を狙い、勝負強い打撃で投手陣を助けた」と闘志を燃やした。

（林泰輔）